

平成 23 年 2 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 23 年 第 2 回講話

恒例の質問

おはようございます。

最初に恒例の質問を致します。

今年に入ってから今日まで、嘘をつかなかった方？

ほとんどの方の手が挙がりました。素晴らしいですね。今年に入ってから、嘘をついたかつかないかが明確に分かっている。相手を助けるためについた嘘は良い嘘ですから、カウントしないで結構です。

今年は、ずっと良い日が続いていると思う方？

良い日にするか悪い日にするかは、その人の心がけ次第です。人間関係によって自分の心が動いてしまうのはあまり良くない。自分の心の中の判断です。

今年に入ってから、有難うと言い、有難うと言われることが多いなと思う方？

昨日は詩吟の練習があつて鉄砲洲神社に行きました。何度も申し上げていますが、入り口の手水の所にかけてある額に「威張るな・欲張るな・妬むな・怒るな」と書いてあります。そこを通るたびに立ち止まって、自分はどうかと反省しています。最後の「怒るな」は、時々危ないことがあります。怒ると瞬間的に血圧が上がりますから、身体にもよくない。私はこの「威張るな・欲張るな・妬むな・怒るな」を時々思い出して、自戒しています。皆さんも自分に良い言葉を見つけて、時々思い返すとよいと思います。

人物との出会い 現場主義に徹する -

余談になりますが、先日、銀座にある安岡正篤銀座サロンで、中斎塾顧問でもある郷学研修所の安岡正泰理事長と或る銀行の頭取とをお引き合わせをしました。仲介の労をとったのですが、その時の頭取の言葉が印象に残りましたのでご紹介します。

その頭取の銀行は、平成 18 年度に 280 億円の赤字を出して業務改善命令が出ました。翌年に 1000 億円の預金が流出し、20 年度には 500 億円の預金が流出しました。頭取として

それを挽回するために、現場主義に徹したと言っておられました。その方は緒方貞子さんと一緒にお仕事をされて、非常に影響を受けたのだそうです。驚くことに、緒方貞子さんは50歳までは家庭の主婦だったそうです。国連の難民高等弁務官をされていた時は、とにかく何か問題があったら現場に行くというスタンスで、御歳70歳くらいで、防弾チョッキを着て、砲弾が飛び交う中に自ら行かれて活動をされていた。当然、トイレも風呂もないような場所であっても、自ら現場に行かれたそうです。そういう緒方さんの生きざまを見て、現場主義を叩き込まれたのだと感じました。

頭取曰く、「存亡の危機にあった銀行を立て直すために、とにかくお客様回りをする。靴底をすり減らして、行員と一緒に、丁寧にじっくりと一軒一軒回ることに徹した」そうです。お客様のところに行くと、何の用だ！ と罵声を浴びせられて、中に入れて貰えないこともあったそうです。というのは、その銀行株も額面割れになりましたから。それでも自分が率先してお客様回りをしたそうです。「別に特別なことはしていません。お客様の要望を聞いて、雨が降っている時に傘を指す銀行にしようと思って一所懸命やったら、おかげさまで何とかなってきました」と言っておられました。

頭取にもなれば、大概、自分でお客様周りはしないでしょう。自分から尋ねていくこともしない。いわんや罵声を浴びせられても、靴底を減らしてお客様回りをした。それが現場の行員さんにも行き渡って、だんだん回復をしてきたのだなと感じました。一見、柔らかく腰の低い方ですが、生半可な大蔵省出身の官僚ではない、緒方貞子さんに仕込まれた分だけ、かなり筋金が入った方だと感じました。久しぶりに経営者らしい人だと思の方に会いました。

今日の論語

では、論語の素読を致しましょう。本日の論語は述而第七 17~25です。

【十七】 し がげん ところ 子の雅言する所は、ししよしつれい 詩書執礼、みな がげん 皆雅言なり。

雅言とは、標準語で正しく話すことです。この時の標準語は周という国の標準語を孔子は使っていました。

孔子が発言する時には正しい発音をして、詩（詩経）書（書経）執礼（礼記にある礼を行う）皆、すべて正しい発音をする。

現代に置き換えて考えてみると、発言はよほど注意しなければいけません。「その件は私

は疎い」と言った総理大臣がいます。国債の格付けが下がったことよりも、日本の総理大臣が「そういうことに関して私は疎い」と発言したことの方が驚きました。日本のトップは国債の格付けについて知らない、と諸外国に発信したようなものです。後から、「疎い」という言葉の意味に屁理屈をつけていましたが、菅さんは発言しない方がよいのではないかと思います。いわゆるぶら下がり記者から聞かれるので答えなければいけないと思うのですが、答えなければよいのです。「あー、うー」と言っていれば記事に書きようがない。大平さんは「あー、うー」と言っている間に、頭の中は高速回転で働いて、どんな発言をすればよいかと考えていました。「綸言汗の如し」、或いは「覆水盆に返らず」と申します。口から出した言葉は、トップであればあるほど下に行くのとんでもない重みを持つものですから、そう軽々と発言をしてはいけません。我々も同じです。一度口から出したこと、特に約束に類するものはメモしておかないと大変なことになります。発言はよほど注意しなければいけないと感じます。

【十八】 葉公 孔子を子路に問う。子路対えず。子曰く、女 奚ぞ曰わざる、其の人とな
為りや、憤を發して食を忘れ、楽しみて以て憂を忘れ、老の將に至らんとす
るを知らずとしか云うと。

葉公とは、楚の国の葉県（今の湖北省）の長官（今の日本で言えば知事）で、賢者として有名です。

子路が葉公に「孔子はどういう人か」と聞かれて、答えなかった。

孔子が言いました。「なぜ子路は答えなかったのだ。物事の道理を研究していて分からないと、公憤を發して食べることを忘れる。その道理が分かると、嬉しくて憂いを忘れている。学を好んで、歳をとることも知らないという人間だと」

言うべきことはこの通りだと孔子が自分自身を評したわけです。そして子路には、聞かれたらこう答えなさいという話をしています。

「憤を發して食を忘れ、楽しみて以て憂を忘れ、老の將に至らんとするを知らず」という文章は良いですね。何かに熱中すると食べることも忘れて、はっと気がついたら夜が明け
ていたという経験は誰にでもあると思います。今の子供たちは、朝までゲームに熱中して
しまう子供が多いと聞きます。やはりゲームにはそれだけの魅力があるのだらうと思いま
すが、そういう魅力のあるものを世の中の大人が子供に提供していないのではないかと思
います。

夜が白々と明けてくるほど物事に熱中する時があった、又は、これから何かに熱中するも

のがあれば、その人はかなり上等だと思って戴いて結構だと思えます。それから更に上に上っていきますから。

ただ、今の政治家の方々は、似たようなことをやっているけれども、あまり上等だという感じはしません。

【十九】 しいわ われ う 子曰く、これ し もの あら 我は生まれながらにして之を知れる者に非ず。いにしえ この びん 古を好み、敏にし
もつ これ もと もの て以て之を求めたる者なり。

孔子が言うには、私は産まれた時から物事の道理を知っている人間ではない。昔の人の話を聞いて・学んで・覚えて、一つひとつ階段を上っていく人間なのだ。

これは謙遜でもあり、本音でもあるでしょう。孔子は、古代のことを色々と研究するのが大好きで、こつこつと休みなく、尚且つ俊敏にこれを我がものとしていったのだから、誰でも出来ることだと言っています。

こつこつと休みなく、ちょっと他の人より急いで学んでいく。なかなか出来そうで出来ません。安岡正篤先生の蔵書を拝見すると、色々な本に書き込みがしてあります。それを見ると、そうした勉強の仕方など、そうそう真似できるものではないと感じます。

渋沢栄一さんの動きも真似ができないと思います。朝6時に起きて、仕度をして、朝食を済ませると来客が待っています。九時半まで来客に應對し、その後、迎えの車に乗って仕事に出かける。新聞や雑誌は車の中で読みます。夜は又、人に会ったり会合に出たりして、自宅に帰るのが11時。その後、自宅に届いている書簡に目を通して、返事をしたためたりする。寝るのは12時と決めている。それをずっと毎日繰り返しているが、最近は大分歳をとったものだから、徹夜が出来なくなった・・・と、85歳の時に言っているのですから驚きます。更に寝る時には、今日は何なたにお会いして・どういう話をして・どういう約束をしたか、ひと通り思い出して納得しないと眠りにつかなかった。そういう生活リズムになっているので、色々なものがこなせるのだらうと思います。

渋沢栄一さんは、仕事が第一の趣味だと言っています。それ以外に趣味はないと言っていることに関しては、本当かなと思いますが、こつこつと常に努力しているのは事実ですから、孔子をお手本にして孔子のように生きていきたいと切に思ったからこそ、実践できたのだなという感じがします。

ですから我々も、こつこつと継続していければよいと思います。日記をつけている人はおられますか。日記が無理なら月記、それが無理なら年記でも良いので、書くことをお勧め

します。1年に1回でも、10年・20年・30年と続けられたら大したものです。私は高校時代から日記をつけています。そうすると、考え方がぶれているかいないか、自分がどのように物事を考えてきているかが分かります。

【二十】 し かいいきらんしん かた 子 怪力乱神を語らず。

怪は怪異、力は暴力、乱は乱虐、神は鬼神です。

孔子はこういう類に関して、話をしなかった。

なぜ孔子は話をしなかったか、ということを考えてみればよいと思います。

私の話だけでなく、色々な解説本が出ていますから、どういうふうに書いてあるかご覧になるとよろしい。そして私の話と比べればよいと思います。そうすると少しずつ自分でも調べようという気が起きてくる。それが良いことです。

【二十一】 しいわ さんにんおこな かなら わ しあ そ ぜん もの えら これ したが 子曰く、三人行 えば 必ず我が師有り。其の善なる者を択びて之に 従い、
そ ふぜん もの これ あらた 其の不善なる者は之を 改む。

孔子が言うには、何かことを行う時に、三人集まれば必ずその中にお手本に出来る人がいるものだ。その中で善いと思う者を選んでお手本にして、自分にも問題がありはしないかと反省をして、問題があればそれを改める。

こういう心掛けでいれば素晴らしい人物になると思います。何かをやる時に、お手本になる人は沢山います。ああなりたいと思う人もいるし、こういう真似はしたくないと思う人もいます。自分自身も周りからどう見られているか考えるとよろしい。

【二十二】 しいわ てん とく われ しょう かんたい そ われ い か 子曰く、天 徳を予に 生 ぜり。桓魋 其れ予を如何にせん。

桓魋という人物が孔子を殺そうとした。桓魋は宋の人で、孔子の弟子の司馬牛の兄です。

孔子が言うには、天が私を世の中に送り出したので、桓魋ごときが私を殺せるわけがない。

孔子は学んで学んで、努力を続けた結果、人が真似できないようなレベルにまで上って

いる。そういう人間を殺そうと思っても、出来るわけがない。殺されるはずがないという自信を持っています。

渋沢栄一さんも解説の中で、学びに学んで実践を積み重ねた人間は、そういう自信が出て当たり前だと言っています。渋沢栄一さん自身も何度も殺されそうになったが、こんなことで私が殺されるわけがないと思いつけていたようです。事実、26歳の時に新撰組に襲われましたが、ご自身も腕に覚えがありましたから、無事に切り抜けました。又、東京市に水道を作ろうと運動をしていた時に、馬車に乗っているところを暴漢に狙われました。この事件は、まずは外国製の水道管を使って漸次国産のものを啓発しようとする渋沢さんの考えに、納入を目論んでいた業社が仕掛けたことだったようですが、ここでも内に省みて疾しからぬ確乎たる意気で切り抜けたとあります。

更に渋沢栄一さんは、桜田門外の変の時の井伊直弼について、「桓魋 其れ予を如何にせん」という自信がありやなしや・・・と言っています。但し、井伊直弼は浪士が襲ってくると忠告を貰っていながら、お供も者に刀の柄袋はきちんと締めておくように命じたのですから、殺されることを半ば自覚しながら駕籠に乗っていたのだと私は感じています。

【二十三】 しいわ にさんし われ もつ かく な われ なんじ かく な われ おこな
子曰く、二三子、我を以て隠すと為すか。吾 爾に隠すこと無し。吾 行
にさんし しめ もの な こ きゅう
うとして二三子に与さざる者無し。是れ丘なり。

孔子が弟子たちに言いました。

お前たちは、私が何か隠していると思っているのか。私は何も隠してはいない。私は実践をしている。私の立ち居振る舞いを見て覚えなさい。このやり方が孔丘である。(孔子流である)

【二十四】 し よ もつ おし ぶん こう ちゅう しん
子曰く、四つを以て教う。文 行 忠 信。

文は学業、行は実践、忠は誠実、信は信義です。

孔子はこの四つの事柄をもって人を教えた。

【二十五】 しいわ せいじん われえ これ み くんししゃ み え こ か
子曰く、聖人は吾得て之を見ず。君子者を見ることを得ば、斯れ可なり。
しいわ ぜんにな われえ これ み つねあ もの み え こ か な
子曰く、善人は吾得て之を見ず。恆有る者を見ることを得ば、斯れ可なり。亡けれども有
な むな み な やく たい な かた つねあ
りと為し、虚しけれども盈てりと為し、約なれども泰なりと為す。難きかな恒有ること。

孔子が言うには、私は聖人という人にお目にかかったことがない。君子らしい人に会えば、それで上等だ。善人という人にもまだお目にかかったことがない。心がわりをしない人に逢えば、それで上等だ。無かったものが後にあるものになり、空っぽなのに満ちていると装う、貧しいのに豊かなふりをする。心がわりをしないというのは実に難しいことだ。

聖人であるとか君子であるとか善人というのは、孔子でさえお目にかかったことがないのだから、なかなか世の中にいませんね。

空っぽなのにいっぱいを装うという部分は、知識で言えば一知半解です。

この文章は、当たり前前を当たり前前に見せる。自然体がよいなと感じます。自分自身はどうか、周りはどうか見渡してみればよいでしょう。

新聞の見方 民主党がどれだけ無様な手を打つか

私は今年、新聞を読む時に3つのキーワードで読むと申しました。

一つは民主党がどれだけ無様な手を打つかを見たいと思っています。どんな手を打つかではありません。民主党の打つ手は無様であると決めていますから、民主党が素晴らしい手を打てば前言撤回を致します。民主党は今、やることなすこと綺麗ではない。私利私欲で動き過ぎるから、後手に回るものばかりだと感じています。菅政権は末期に来ていると新聞にも書かれています。ここになると普通は、菅たたき・バッシングがもっと始まるはずですが、まだあまりありません。

二つ目は国債です。先ほど申しましたが、格付け会社が格付けを一つ落としました。それに対して日本の総理大臣が「私はそういうことに疎い」と言った。とんでもない発言だと思います。

三つ目は自然災害です。

新聞を開くと、民主党の打つ無様な手が次から次に出ています。例えば年金に関して申します。

先日新聞を読んでいて、政治家の使う用語は実に分かりづらい困った言い方だと思いました。お金持ちの年金受給者は、貧乏の年金受給者に分けてあげる仕組みを創りましょうということで、高齢者同士による相互助け合い制度を創設したいという記事がありました。もっともらしい書き方をしていますが、何か本質と違う書き方をしていると感じます。相

互というのはお互いがお互いを支えあうのであって、この場合、金持ちによる貧乏人の救済制度と書いた方がよほど分かりやすい。日本の国は、＜金持ちはけしからん。罰則として税金をとる＞という思想が、脈々と続いています。それが今回、表面化してきたなと感じています。

もう一つ、年金受給年齢を 65 歳から 67 歳に引き上げようという提案が現実味を帯びてきています。団塊の世代が年金を受給するようになると、その資金として消費税を上げるしかない。どんどんそういう方向に向いています。それを回避するために受給年齢を引き上げるしかない。場合によったら、70 歳からという方向に向いています。ミスター年金と言われた長妻さんはどこに消えたのでしょうか。

民主党は今まで自民党が手をつけられなかった部分にも結構手を突っ込んで、しがらみを壊しています。そういう点では評価できますが、その結果、悪い仕組み・国民が痛みを感じるものをどんどん進めています。日本の国が坂道を転げ落ちる時に、民主党はそれを加速させる役を担っている。民主党が何かやればやるほど、日本の国家にとって悪いことが起きるので、いっそ何もしないで欲しいと思います。

私はいつ北朝鮮からミサイルが飛んでくるかと思っています。これは相当、現実味を帯びた話になっていると思います。ロシア・中国・韓国・北朝鮮といった国は、日本を狙ってあからさまに手を打っていますが、それが新聞に出るとぼかされてしまう。北方領土問題にしる、ロシアは言いたいことを言っていますね。領土紛争は一時棚上げ、歴史論は棚上げで、日本とロシアが仲良く出来るような経済協力の話をしましようというのですから。しかしそれだけ、北方領土を自分の国のものにしようという腹決めをして、その結果、今のよう動きになっているのだらうと思います。

毎年 2 月 7 日に、北方領土返還要求全国大会が行われます。私は毎年参加していますが、その理由は、内閣総理大臣の警備がどうなっているかを見に行くのです。今回は、トップの意思が結構大事なのだなと感じて帰ってきました。細川さんが総理大臣になった時に、それまで無防備だった警備が、会場内に入る際にボディチェックや手荷物の検査、飛行機の搭乗ゲートのようなセキュリティチェックが導入されて強化されました。細川さんは狙われているということ意識して、しかも殺されたくないという意思を下の人たちに命じたのだと感じました。その後だんだん警備は強化されましたが、今回は緩んでいました。緊張感が伝わってきませんでした。もちろん S P も立っていて、防弾カバンも持っていました。何か起った時に咄嗟に身を挺して総理をかばうという意識が伝わってこなかった。菅総理には狙われているという意識がないし、死にたくないというメッセージも

出していないのだと思います。流れに任せてただ乗っかっているだけの総理大臣だなと感じました。緩み方が半端ではなかった。もう警察庁も官僚も、見切っているのではないかという感じがしました。

師匠ならば、どう判断するか・・・

先ほど申しましたように、新聞を読む時 3 つのキーワードで判断しますが、やはり自分で判断しきれないものがかかり出てくると思います。そんな時、自分が師と仰いだ人が生きておられたらどういう判断をするか、そう考える癖をつけるとよいと思います。私の場合は木内信胤先生です。

木内信胤先生は幼少時、どもっていたそうです。そのおかげで、ものを深く考える癖が付いたと言っておられます。ものを深く考える癖がついていた人が行動に移るようになったのは、父親の死がきっかけでした。木内先生が数え 27 歳の時、お父さんが亡くなられました。もう父親と話が出来ないのかと思って、これからは実践する人間になろうと決めたそうです。父親の死後、法華経を読み始めて、5 年間で法華経の全巻を 12 回読んだそうです。以来ずっと法華経を読むことを生活習慣にしておられた。声を出して淡々と何度も読むというスタイルでした。内容については、小林一郎という先生を自宅に招いて講義をしてもらっていました。その勉強会はかなりレベルの高い内容で、内閣総理大臣を務めた加藤高明さんの奥様も、ご主人を亡くされた後に参加されていたそうです。そうやって木内先生の考え方の中には法華経が相当色濃く入ったのだと感じます。法華経を通して世の中を見る眼を養っていったのだと思います。

判断する時に肝心なのは、我々もそうですが、誰が言ったからそうなのではないかではなく、自分自身がどう思うか・どう判断するかです。それが出てこない時には、自分が師匠と仰いだ人はどう判断するだろうかと考える。そういう思考過程を持たばよいと思います。

やはり師匠というものがが必要です。佐藤一斎曰く、第一等の師匠は天地自然です。これは西郷隆盛型です。第二は、迫力のある人格を持った人物です。生身の人間を師匠とする。私にとっては木内信胤先生です。三番目は良い書物です。私は渋沢栄一さんの書かれた『論語講義』を何度も読み返しています。三つの師匠の何れかに出会えてそれを我がものとする事が出来れば、人生は豊かであると思います。そうすると自然と世の中を見る眼も養われてきます。師匠から得た知識が自分自身の中に入って一体化すれば、判断する時にそうそう困るものではありません。

渋沢栄一さんは実業界や官界、或いは家庭において様々な問題に沢山出会い、又、自分から問題を追いかけて生きてきたような人生だったけれども、85歳の今日まで、困ったことは一つもないと言っています。なぜならば論語を見れば皆、答えが書いてある。論語の中に自分が抱えた問題の解決の糸口が書いてあるということを言って、周りの人にも論語を勧めています。論語を活用するというよりも、完全に一体化していると感じます。

ですから我々も論語を読む時に、良いなと思う言葉に出会えたら素晴らしい。それをきっかけにして、どんどん深く読み込んでいけばよいのです。私は「利に放りて行えば、怨多し」という言葉が自分自身の判断基準になっています。

時事問題

民主党で16人の政治家が新しい会派を作るという動きがありました。これを判断する時に、「利に放りて行えば、怨多し」で考えると、この人たちの利とは公利なのか、私利私欲で動いているのか考える。そうすると、どう見ても公の利益とは考えられません。「民主党政権交代に責任を持つ会」という名前ようですが、どう見ても、比例代表でぎりぎり下位当選した人たちが賭けに出たのだと思います。自分自身の私利私欲でこの人たちは動いている。そしてその思いを分かっている人間が、後で操作しているのだろうと感じてしまいます。これで名前が売れて外に出れば大臣になれるかもしれない、などと勧誘した人もいるなどと語るに落ちるような話が囁かれています。いずれにしても菅内閣の末期症状、倒閣運動だと感じます。後に小沢さんがいて、小沢さんの意向を受けた人間が色々画策をしているのでしょう。それに私利私欲が絡まりあって今の動きになっていると思います。

表面化して記事になったものだけを見ると、尤もらしく書いてあって、何となくそうかなと思わざるを得ないような新聞の筆致です。新聞も意識して読んでいかないと、特に記名のない無責任な記事は、よほど眉に唾をつけて読まなければならないと感じています。

今回の16人が会派離脱願いを出したことについては、菅さん自身も細川さんの頃と同じようなことをしています。自分と同じような動きを16人がやったからといって「考えが分からない。とんでもない」という科白は出てこないはず。菅さんの言動がどんどん変わってしまっている。おそらく民主党の人たちは、総辞職をして菅さんが辞任をし、前原さんを総理大臣に据えるのが一番良いと思っているのでしょう。岡田さんは出過ぎましたし、小沢さんに狙われ過ぎています。今の民主党は、党内の事情だけで動きすぎています。

そういう民主党内の動きはコップの中の戦いだと思えば、我々が見るべきは、コップが倒れて中の水がこぼれたらどうなるのだろう？ それを支えている日本とい

う国はこれからどうなるのだろう？ そう考えていって、さて、自分自身の組織は？ 家庭は？ 自分自身は？・・・と考える順番をもっていけばよいと思っています。

まだ1ヶ月くらいは民主党の無様な動きは続くと思います。予算案を通す・通さないでバタバタしていますが、国民生活を第一に考えると言っているにもかかわらず、後回し・後回しになっています。ですから新聞に書いてあるような大義名分は、すべて後回しだと思って読んでいかないといけません。口に出した大義名分は全部正反対だと、色眼鏡で新聞を読む必要があると思っています。

民主党を眺めたら、次は国債です。今、お金は相当だぶついています。銀行はお金を貸したくて仕方がないけれども、貸すところがない。中小零細、貸しても返ってこないようなところからは貸し剥しです。税務署にしても、お金が回らなくてどうにも苦しい会社は早く倒産してしまいなさいという動きが相当感じられます。ですから中小零細・弱小については、お金は回りません。儲かっているところには、どんどんお金を貸そうと必死の営業をしている。そういう状況ですから日本の中はどんどん分裂して、良くなっていく所と悪くなる所が極端になります。これは企業としてもそうですし、個人にしてもそうなります。

私が意識して見ているのは、富裕層と極貧層という分け方を新聞や雑誌等はしていますが、そのカウントの仕方です。色々な前提条件がありますが、凄い差があります。いったい政府が発表する金持ちというのは、幾らからなののでしょうか。最近の例で、一つの省庁で、250万以上が富裕層だという線引きをした例もあります。富裕層と極貧層のカウントの仕方、そして自分がどちらに入るのかを見ながら、政府が発表する数字を追いかけていくと良いと思います。特に、自分自身に直接係わるような数値であるとか、話、政策については、意識して抽出して見ていくと良いと思います。大分変わるはずですが、はっと気がついたらとんでもない数字が出てくる場合も考えられます。

質疑応答

(質問)すでに塾長は、これから日本は坂道を転げ落ちる時代になるという話をされて、今日の講話の中にもありましたが、そんな中で我々は知足という考え方を持てたいのでしょうか？

(答え)日本の国が転げ落ちる時に、心が穏やかで、生きていてよかったなと人生の充

実感を感じる考え方は、足るを知るという心を持っているかどうかです。知足という考え方が身に付いているかどうかで、地獄にもなるし天国にもなると思っています。知足の心が、これから生き延びていく中で充実感を持って生きていく最大のキーワードであると思っています。

天国と地獄の長い箸の話をご存知ですか。天国でも地獄でも同じように大きなテーブルにご馳走が並んでいる。しかし食事をする箸は長い長い箸を使って食べなければならない。地獄のテーブルに座った人たちは、長い箸で自分で自分の口に食べ物を入れようとするから、ポロポロと落としてばかりで食べられない。一方、天国にいる人達はその箸を自分の正面に座っている相手に向かって差しだして口に入れてあげるから、いつもお腹がいっぱいの満足感を味わうことができる。

足るを知る心・知足の考え方、「おかげさまで」「相身互い」といった日本古来のものの考え方が身に付いている人たちは、「お先にどうぞ」と取って差し上げることが出来るので、日本人の場合はまだまだあるのではないかと思います。なくなってきたら、それをもっと身に付けるように努力すべきだと思います。足るを知る心が一番基本だと思いますし、これが無くなってしまったら、転げ落ちるところか消滅するでしょう。

(質問) 先ほど新聞を見る時の3つのキーワードの中で、自然災害を挙げておられましたが、我々はどのように見ていけば良いのでしょうか？

(答え) 新聞の中に小さな囲み記事が結構出ます。それを読んでいて戴くと、目の前の問題として、鳥のウィルスの記事が時折出ます。強毒型のウィルスが発見されたという例が、昨年と比べものにならないスピードで日本国中広がってきているなど感じます。意識して手洗いとうがいをする習慣をつけないといけないと思います。これは或る日突然、人から人への感染が始まると思っています。これが自然災害の中でのウィルスによる伝染病の危険性です。

それから小さい囲み記事を見ている中で、おやっと思って調べたのはクールー病です。狂牛病から発して、動物というのは、同じ動物の脳みそを食べると狂うようです。狂牛病も、同じ牛の脳みそを砕いて餌に入れていたことが、かなり大きな影響を与えているようです。人間の場合も、人間の肉を食べる食人種がニューギニアの奥地において、西丸震哉さんという人が調査に行き調べたところ、死んだ人の頭蓋骨を割って脳みそを食べる種族が一つあって、クールー病にかかって死ぬ人が多かった。クールー病というのは、本人は苦しいのですが笑っているように見える。だんだん痴呆が酷くなって、最後は100%死

ぬのだそうです。西丸さん曰く、「エイズのように手の付けられない病気がこれから人類に発生して、それによって相当人類は死亡するであろう」と書いています。クールー病のように、今まで自分が見たこともないようなものが囲み記事でちょこっと出ていたりしますから、新聞は隅から隅まで見て、特に囲み記事を意識されるとよいと思います。